

「SP調査」と「RP調査」

SP(Stated Preferences)調査はアンケート調査において、回答者の選好をたずねることで評価する表明選好法のことである。調査には回答者に対して選好をたずねることで評価する質問形式にいくつかの方法があるが、報文では「プロフィール」と呼ばれる複数の仮想的状況下を設定し、回答者に選好をたずねるものである。

ここで、キープレフト協力意向を例に説明する。円滑性を強調した広報資料案を回答者に見てもらい、図-1のような情報提供、周囲のキープレフト割合、通行料金の割引有無を仮想的に設定した上でのキープレフトの協力意向をたずね、回答者に「はい/いいえ」で回答してもらうものである。

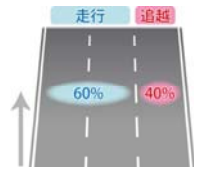
次に、RP(Revealed Preferences)調査は実際に人間の行動データをもとに推定する顕示選好法のことである。この方法は人間の実際の行動データを用いて調査を行うため、比較的信頼性の高いデータを得られることが利点としてあげられる。

- あなたは混雑している高速道路を走行しているとします。
- この時、渋滞はしていません。

- 情報板に次のような協調性に訴える情報が出ていたとします。



- 40%が追越車線を走行しています。
- 60%が第一走行車線と第二走行車線を走行し、キープレフトを守っています。
- ※現状は55%が守っています。



- 通行料金の割引はありません。

あなたはキープレフトを守り、走行車線を利用しようと思いますか？

図-1 円滑性を強調した広報資料の例

国総研 高度道路交通システム研究室 岩武 宏一

ソリトン分裂

地震によって発生した津波が水域を伝播するのに伴い、波形や水深等の条件によっては、津波の先端部が周期の短い複数の波に分裂する。このような現象をソリトン分裂といい、波状の段波形状(波状段波)を呈し波高が増幅しながら遡上する(下図参照)。

このような現象は、津波が遠浅の場所を遡上する場合に発生しやすく、特に河川を遡上する場合、

さらにソリトン分裂が進行し波高が増幅することが多く、構造物に作用する荷重(波圧)の増大等が懸念される。

このソリトン分裂は、詳細なメカニズムについてはまだ不明な点が多く、堤防の越水リスクや構造物の被害リスク等に直結するため、防災上の観点からも重要で注目すべき現象といえる。

土研 水理チーム 坂野 章

